



グリーンプリンティングニュース

2022 GP環境大賞等表彰式

日本印刷産業連合会は、去る10月19日(水)16時より東京都品川区・DNP五反田ビル(ホール)において、「2022 GP環境大賞等表彰式並びに「印刷と私」トークショー」を開催いたしました。今回は、コロナ禍ということもあり、受賞者中心の100名ほどの参加で行われました。

北島会長挨拶

開催にあたり主催者を代表して北島義斉会長が挨拶を行い、「GP認定制度の基準は、近年社会の目標であるSDGsのゴールとターゲットに連動していると考えている。顧客企業からのGP工場への印刷発注はサプライチェーンを通じたSDGsの達成に寄与すると考える」と、受賞者への祝辞とともにGP認定制度の重要性を強調しました。



主催者挨拶 北島義斉会長

GP環境大賞ゴールドプライズ表彰 小池都知事挨拶



小池都知事受賞の挨拶

次にGPマーク表示印刷製品を多く発注したクライアントに贈られる2022 GP環境大賞・準大賞の表彰が行われました。プレゼンターはグリーンプリンティングPR大使の小山薫堂氏。最初に過去3回GP環境大賞を受賞している東京都にGP環境大賞ゴールドプライズを贈呈。東京都を代表し小池都知事が登壇し、小山薫堂PR大使から表彰状と記念の盾が手渡されました。小池都知事に次のようなご挨拶をいただきました。「東京都は、環境配慮に対しいつもトップランナーであるべきだと常々考えている。どのような考えで東京都が印刷発注するかは、国全体に影響

を与えると、その責任を感じながら発注している。環境大臣として2005年にクールビズを始めた。気候変動に対し各自が意識を変えていこうという取組である。VOC対策では印刷業界にも大変なご協力をいただいた。一人一人が主体性を持って、どういう方向で対応を進めるかが一番重要なこと。印刷業界では印刷物の原材料の調達に厳しいと思う。電力も厳しい中で、東京都ではH T T (電力を減らす(H)、創る(T)、蓄める(T))を進め、厳しい冬を乗り切ろうとしている。気候変動、エネルギー危機、食糧危機等があるが、むしろピンチをチャンスに変えることを皆さんとともに進めたい」。

GP環境大賞・準大賞表彰 河村三鷹市長挨拶

GP環境大賞は、あいおいニッセイ同和損害保険(株)、(株)ジェイアール東日本企画、東武鉄道(株)、(株)ホテルショコラ、(株)あわしま堂、GP環境準大賞は三鷹市をはじめ11社・団体に贈られ、河村三鷹市長からご挨拶をいただきました。「表彰式が始まる前に本会場1階のP&Iラボの展示を見せてもらった。印刷業界は環境だけでなく技術革新が素晴らしい。展示内に「未来を当たり前にする」とあったが、今回の受賞は未来に期待して頑張れという賞だと思っている。地域の中でみなさんと一緒に環



河村三鷹市長受賞の挨拶



GP環境大賞・準大賞受賞者

環境配慮をしなければならない、なお、三鷹市は「星空の街、あおぞらの街」全国大会の今年の開催地となった。これは未来に渡って大気汚染を減らしていきたいという宣言である。環境問題を街づくりの中心に置いて頑張っていきたい。

GPマーク普及大賞・準大賞、GP資機材環境大賞表彰



GPマーク普及大賞・準大賞受賞者



GP資機材環境大賞受賞者

続いて、GPマーク普及に貢献したGP工場に対し、プレゼンター北島会長よりGPマーク普及大賞・準大賞が贈られました。大賞のNTT印刷(株)、(株)笠間製本印刷、六三印刷(株)、(株)北四国グラビア印刷、(株)NACAMU

RAの5社に表彰状が会長から手渡された後、準大賞の12社を代表して岩岡印刷工業(株)に表彰状が授与されました。

環境に配慮したGP資機材認定製品を多く提供しているメーカーを表彰するGP資機材環境大賞では、コダック合同会社とコニカミノルタジャパン(株)に表彰状が贈られました。

代表謝辞

GP環境大賞、GPマーク普及大賞、GP資機材環境大賞の受賞者を代表して、(株)ジェイアール東日本企画首都圏統括支社社長の早坂玲氏が次の様に謝辞を



代表謝辞 早坂支社長

述べられました。「2006年度から印刷を発注していたGP工場のアドバイスによって、JR東日本に話をし、印刷物にGPマークを表示している。2015年の第1回GP環境大賞から7年間連続して、大賞や準大賞をいただいている。環境配慮とSDGsの対応として、私たちや子どもたちの未来に向けて、パンフレット等の印刷などみなさまと協力して取り組んでいきたい」。

挨拶 小山薫堂PR大使

小山薫堂グリーンプリンティングPR大使の挨拶として「本式典ではクライアントと製造者を一緒に表彰している。これはSDGsの『つくる責任、つかう責任』という作り手と使い手が一緒に手を組んで目標に向かっていく素晴らしい賞だと思っている。一つの業界を変えていくときに、一つの賞を設定したことによって、皆が同じ方向に向き、そこに相手を巻き込み、同じ未来に向かっていける。この

仕組みは他の業界でも利用すべき制度かなと思う。GP環境大賞等のような制度が印刷業界だけにとどまらず、さまざまな業界で同じような試みが広がっていけば、もっとよりよい未来に向かっていくと思う」とあり、表彰式は無事終了しました。



小山薫堂グリーンプリンティングPR大使

トークショーと閉会挨拶

GP環境大賞等表彰式終了後、15分ほどの休憩を挟んだあと、小山薫堂PR大使と写真家ハービー・山口氏による「印刷と私」トークショーを開催しました(その模様は次ページに掲載します)。

トークショー後、菅野潔グリーンプリンティング推進部会長から閉会挨拶が行われました。



閉会挨拶 菅野GP推進部会長

GP周知イベント「印刷と私」トークショーを開催



「印刷と私」トークショースタート

グリーンプリンティング（GP）認定事務局では、2017年から毎年、GP認定制度の認知向上と印刷の意義や魅力を広く発信することを目的に、グリーンプリンティングPR大使の小山薫堂氏とゲストによるトークショーを開催しています。6回目になる今年は、10月19日（水）に行われたGP環境大賞等表彰式と同会場にて、初めてとなる公開収録を行いました。

ゲストには高名な写真家ハービー・山口氏をお招きし、小

山薫堂氏とのトークが繰り広げられました。トーク会場に隣接するDNPのP&Iラボを見学後、表彰式終了後の会場にてスタート。まず、ハービー氏と印刷との関わりについて、1985年、35歳のときロンドンの写真集の写真と印刷のクオリティーが高く評価されたこと。写真家として最終形態である印刷した写真集が残ることが心強いこと。印刷がオリジナルを超えるようなものを作ってくれば素晴らしいとし、「写



小山薫堂氏



ハービー・山口氏

真家は撮るときに魂を入れる。印刷のときに魂を入れてもらえればコラボレーションで魂が重なる」と熱く語られました。

小山薫堂氏から、「同じカメラなのにハービー氏には多くのシャッターチャンスが訪れる。それは何なのか」と質問。ハービー氏からロンドンのボーイ・ジョージや地下鉄で出会ったバンドのザ・クラッシュの話、知らない民家の庭に入り込んでテレビを観ているお年寄りを撮った話など、シャッターチャンスの秘話を次々に披露。その中で「人物写真を撮る最高のテクニックは、被写体の方の明日の幸せを祈ってシャッターを切る」こと。そうすればトラブルはないし、そのポジティブが撮られる人の警戒を解くことができる。人間力が大事であり、よい写真を撮ろうと思う気持ちに比例した数だけのシャッターチャンスに巡りあえると答えました。

小山薫堂氏も感動したハービー氏の街のスナップショットのライドショーをゲイリー・ムーアの曲に合わせて上映後、偶然に乗車したパンクバンドのドラムをしているタクシー運転手の写真を撮り、それをきっかけに武道館が満員になった話、お互いが知らない新幹線で出会ったピアニストの写真がツイッターで120万人のアクセスがあったことなど、不思議な出来事を披露。

小山薫堂氏からは、最澄の「一隅を照らす」のように一つのことを頑張って幸せになったら輝くという話がなされました。「ユーハイム」のバームクーヘンのレシピは変えていないが、昨日よりちょっとでもおいしくしたい思いで焼き続け、味が進化している話、モットーは「世の利をつくる愛でありたい」と



トークショー終了後観客を撮影

いう話など、二人の話が共鳴しあいながら進んでいきました。会場を沸かせた二人の約50分に及ぶトークショーは、P&Iラボの見学風景も含め約30分にまとめ、YouTubeのグリーンプリンティングチャンネルにて公開しています。ぜひご覧ください。

第51回GP工場交流会の開催

グリーンプリンティング認定事務局では、第51回GP工場交流会を10月27日(木)の15時～17時30分にZoomにて開催しました。今回は、今年第20回印刷産業環境優良工場表彰で経済産業大臣賞を受賞した株式会社太陽堂印刷所、及び小規模事業所部門で日本印刷産業連合会会長賞を受賞した製本会社の有限会社中正紙工に、受賞に至った環境配慮活動について講演していただきました。太陽堂印刷所は比較的小規模な工場ですが、各課の環境目標が明確に掲げられ、GPマークの普及、従業員の健康を配慮した工場内のVOC対策、環境法規制対応の徹底、社内のコミュニケーションの活性化など、他の模範となる工場です。中正紙工はカレンダーリンクや製本リンクが得意な会社で、騒音・悪臭対策、省エネ対策はもちろんのこと、金具の素材を紙にしたり、

裁ち落しのノートを地域住民やキッズクラブに配るなど、製本会社や小規模事業所の模範となる企業です。

続いて、今回は初めての試みとして、GP工場同士の交流が深まるようグループディスカッションを行いました。少人数でありオンラインという気安さから、「わが社の環境配慮」をテーマに自由に活発な情報交換が行われ、GP工場の交流が深まった催しとなりました。参加者は55名でした。



エコプロ2022 東京都環境局ブースでGP制度説明

2022年12月7日(水) グリーンプリンティング認定事務局は、東京ビッグサイトで開催された「エコプロ2022」に出展した東京都環境局ブースのミニステージにおいて、「環境に配慮した印刷発注方法とSDGs」というタイトルで、約45分間の説明を行いました。環境に配慮した用紙、インキ、製本加工方法、表面加工方法の選択方法について触れたあと、印刷会社の選択方法としてGP認定工場の選択がベストである旨の説明を行いました。なお、東京都の環境発注基準「グリーン購入ガイド」の印刷基準では、配慮事項としてGP認定工場への発注が明記されています。また、最後には印刷の環境配慮とSDGsの関連についても説明を行い、サプライチェーンとしてGP工場に発注することがSDGsの実現に寄与する旨を強調しました。



エコプロ会場風景

第69回GP工場認定委員会開催、新規に5工場を認定

日本印刷産業連合会は、第69回グリーンプリンティング工場認定委員会を2022年12月15日に開催し、認定が決定しました。新規5工場（いずれもオフセット印刷部門）と更新33工場、計38工場を認定しました。これで2022年12月現在、活躍しているGP認定工場は全国443工場になりました。

SDGsに向けた取組が意識されるようになった現状において、印刷におけるSDGsの実現の寄与として、グリーンプリンティング認定制度への問い合わせが増えています。また、GP工場からのGPマーク表示の相談も増えており、サプライチェーンにおける印刷会社の役割と顧客への積極的な提案がますます重要になってきています。社会の要請に応えるべく、今後、多くのGP認定申請があることが見込まれます。

また、同認定委員会において、GP資機材の認定を実施し、3社7製品（洗浄剤5製品、エッチ液1製品、インクジェット型デジタル印刷機1製品）を認定いたしました。これで、認定登録製品は770製品となり、資機材メーカーによる環境配慮製品の提供が続いています。

第69回認定—新規グリーンプリンティング認定工場 (2022年12月15日認定)

印刷部門	認定番号	会社名	工場・事業所名
オフセット	B10293	第一印刷株式会社	本社工場
オフセット	B10294	小宮山印刷株式会社	川里工場
オフセット	E10010	株式会社帆風	竹橋プリンティングセンター
オフセット	K10025	有限会社立川システム印刷	
オフセット	K10026	株式会社長谷工システムズ 東京支店	

※認定番号のアルファベットは所属団体を表しています。

